



1. 秋の外国人叙勲、米山学友3人が受章！

旭日中綬章

^{しゃ ぼっけん} 謝 牧謙さん (1965-67/仙台RC、1989/大洗RC)



現在、輔仁大学跨文化研究所兼任教授、台湾大学・文化大学日本研究センター諮問委員。原子力分野における日本・台湾間の学界・産業界の交流深化及び相互理解の促進に寄与。

「身に余る光栄です。1962年4月、日本向けバナナ輸出専用船“僑果輪”に乗り、初めて日本の土を踏みました。10年に及ぶ東北大学での学生生活では恩師岡部泰二郎先生の教学理念に大いに影響を受けました。71年に帰国後、核能研究所に奉職し、原子力研究に従事しながら複数の大学で教鞭をとり、日台間の原子力交流に努めました。リタイア後は奉仕の人生を送り、“恩を忘れず、報いは求めず”のモットーを堅持しています。今後も日台友好の懸け橋として微力を尽くす所存です」

旭日双光章

^{りゅう ようそ} 劉 耀祖さん (1967-69/東京西RC)



池上一郎博士文庫研究学会理事長。台湾における対日理解の促進及び友好親善に寄与。

「私が現在理事長を務めている池上一郎博士文庫は、戦時中に当地に軍医として赴任された池上一郎博士を記念して2001年に開館した「アジア最南端の日本語図書館」です。開館当初、利用者の中心であった台湾の日本語世代は年々減少していますが、最近では台湾や日本の観光客が立ち寄ってくださる機会も増えています。2021年には開館20周年を迎え、1月16日にお祝いの式典を行います。目下、ご訪台は難しいですが、ぜひ皆様も台湾にお越しの際は文庫にお立ち寄りいただければ嬉しく思います。お世話になったロータリアンの皆様へのご恩は一生忘れません。皆様のますますのご健勝をお祈り申し上げます」

写真提供およびコメント
聞き取り：権田猛資様

旭日双光章

チャンタソン・インタヴォンさん (1983-86/東京銀座RC)



ラオスのこども代表。日本・ラオス間の友好親善及び日本の外交官等に対するラオス語教育に寄与。

「ボランティアの方々、スタッフと家族の協力と日本政府からの資金援助により、30年以上ラオス語の書籍出版、図書室設置、ラオスの織物保存・紹介活動に従事してまいりました。日・ラオス外交65周年の記念となる年に、このような栄誉に浴したことを光栄に思い、皆さまに心より感謝しています」

後日ホームページに受章者のコメント全文を掲載します

2. 2021 学年度奨学金申込み状況

2021 学年度のロータリー米山記念奨学金（学部・修士・博士/地区奨励）には、指定校 576 校（地区を超えた指定校の重複含む。前年度 558 校）から 1,427 人（1,402 人）が推薦されました。

被推薦者の国籍・地域は、中国 55.9% (53.1%)、ベトナム 11.1% (10.8%)、韓国 8.8% (8.5%)、マレーシア 3.4% (4.0%)、次

いで台湾、インドネシア、モンゴルの順となっています。課程別の応募状況は、博士課程 20.4% (21.5%)、修士課程 36.6% (36.2%)、学部課程 41.1% (40.0%) となっており、大学院在籍者の応募が年々減少傾向にあります。なお、大学以外の教育機関を対象とする「地区奨励奨学金」には、8 地区 13 校から計 27 人の応募がありました。

3. 寄付金速報 — 米山月間のご支援に感謝 —

10月までの寄付金は前年同期と比べて0.5%増(普通寄付金:3.4%減、特別寄付金:3.4%増)、約270万円の増加となりました。今年度は7月のスタート時から前年を下回っており、9月には前年度比-3.7%、約1,200万円減にまで減少幅が広がっていましたが、10月の米山月間で一気に増加へ転じるほど多くのご寄付をいただきました。とりわけ特別寄付金については大口寄

付があったわけではなく、昨年10月単月と比較して寄付件数(個人・法人・クラブ寄付を含む)が750件増と、大変多くの方々から寄付をいただいた結果となっています。心より感謝申し上げます。早いもので、上期も残り2カ月を切りました。引き続き皆さまからのご支援をどうぞよろしくお願いいたします。



4. 若いパワーで国際奉仕 — さいたま大空RC —

財団学友と米山学友が中心となって2013年に設立された「さいたま大空ロータリークラブ」(第2770地区、会長: 阮^{げん}潔^{けつ}さん)が、モンゴルへの医療支援を実施し、10月17日にオンライン贈呈式が行われました。

今回のプロジェクトは、第3450地区ツェツェーグンRACの発案を受けてスタートし、第2770地区 地区補助金(大口枠)の支援を得て実現したものです。モンゴル国内で主な死因の一つとなっている肝炎患者を救うため、モンゴル国立感染症センターに生体情報モニターや薬品キャビネットを寄贈。「これで何人もの命が助かる。感謝の気持ちを忘れず、頑張っていきたい」と、同センター医師が感謝を述べました。

阮さんの奨学生時代の世話クラブは、同地区の川口モーニングRC。彼女が今も「お父さん」と慕う当時のカウンセラーは、今年度の同地区ガバナー・中里公造氏です。阮さんは「お父さんのガバナー年度に私がクラブ会長となり、米山学友をはじめとするロータリーファミリーで力を合わせた国際奉仕プロジェクトを実現することができて、本当に嬉しい」と、話します。

実際に今回、このプロジェクトの懸け橋となり、さいたま大空RCとツェツェーグンRACをつ



ないだのが、モンゴル米山学友会でした。贈呈式当日も、プロジェクト担当のツェーソドロルツォー・アリョーナさん、トゥメンデルゲル・バヤンバットさん、同RAC

の元会員でもあったジグジット・タミラさんが出席し、通訳や集中治療室の説明に尽力してくれました。トゥメンデルゲルさんは、「モンゴル米山学友会では、グローバル補助金や地区補助金プロジェクトなどのお手伝いをすることができます。海外でプロジェクトを実施したい、発展途上国の子供、教育、環境、保健を支援したいと思っている場合は、ぜひ気軽にモンゴル米山学友会に声をかけてください」と、話しています。

写真上:
さいたま大空RC会員
写真右:
モンゴル国立感染症センターにて、医師とツェツェーグンRAC会員、米山学友たち



米山学友による世界大会 出会い in 台湾 登録開始: 12月1日

- 日時: 2021年6月12日 14:30~16:30 or 17:00、その後懇親会が同建物の2階で開催されます
- 場所: 新店矜谷會議センター (Taipei Innovation City Convention Center) MRT「大坪林駅」下車、1番出口もしくは4番出口から400mくらい